

世界に翔く宮崎牛

発行所
宮崎県肉用牛協会
社団法人 宮崎県畜産会
No.5

1994年9月号



宮崎牛は柔らかくて美味しいと喜ばれるきんさん・ぎんさん（現在102才）

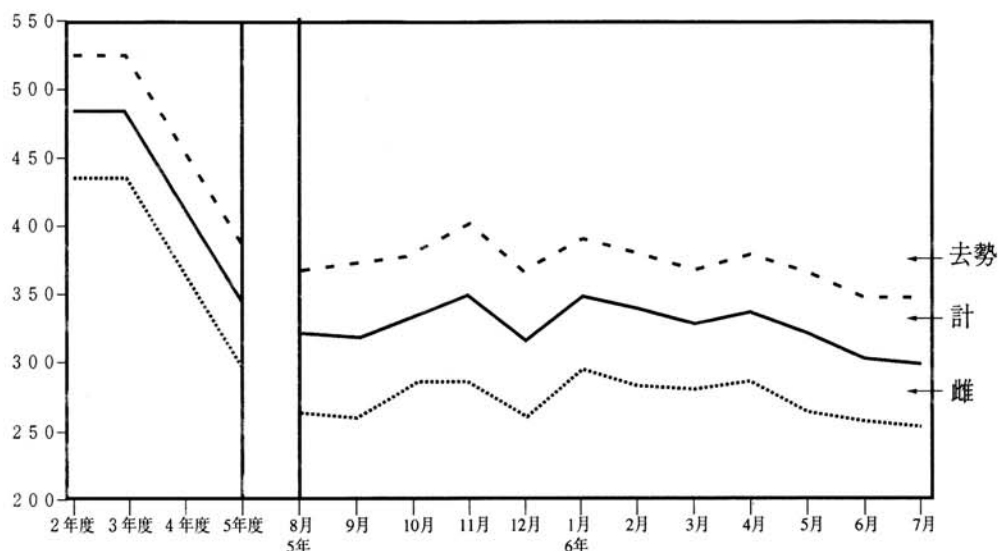
9月号目次

価格情勢	2	今月の飼養管理ポイント	11
事業紹介	3	おたずねします	12
トピックス	4	今後の行事計画	13
技術情報	7	一服放談	14
現地情報	8	編集後記	14

価格情勢

肉用子牛価格の推移 (宮崎県)

単位：千円



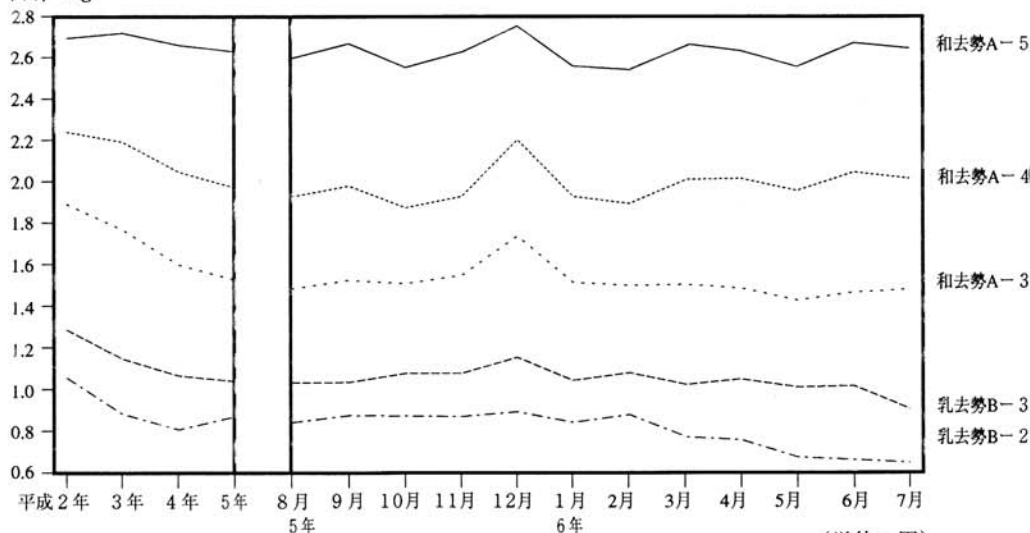
(単位：千円、税込み価格)

	2年度	3年度	4年度	5年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
雌	446	436	362	277	260	257	282	284	259	292	283	279	282	266	245	236	263
去勢	526	527	458	377	366	370	377	398	365	388	387	372	381	372	333	330	379
計	487	485	413	330	317	316	333	346	314	345	338	329	334	323	291	283	324

※平成6年8月分は速報値

品種別規格別牛枝肉卸売価格 (東京)

単位：千円/Kg



(単位：円)

	2年度	3年度	4年度	5年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
和去勢A-5	2,682	2,711	2,643	2,612	2,589	2,650	2,539	2,630	2,751	2,554	2,544	2,624	2,587	2,529	2,658	2,609	2,697
和去勢A-4	2,226	2,178	2,024	1,937	1,913	1,962	1,856	1,926	2,190	1,923	1,895	1,947	1,936	1,851	1,946	1,924	2,035
和去勢A-3	1,862	1,745	1,547	1,498	1,462	1,513	1,489	1,526	1,736	1,498	1,499	1,461	1,432	1,386	1,448	1,462	1,524
乳去勢B-3	1,247	1,116	1,029	1,015	1,006	1,006	1,051	1,060	1,126	1,013	1,054	1,000	1,041	1,033	1,033	911	883
乳去勢B-2	1,020	842	772	827	818	855	849	847	880	829	858	759	770	725	706	684	718

※平成5年度分は単純平均値、平成6年度8月分は速報値

事業紹介

肉用子牛生産者補給金制度

平成6年度保証基準価格及び合理化目標価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
保証基準価格	304,000円	280,000円	162,000円	208,000円
合理化目標価格	267,000円	246,000円	126,000円	163,000円

平成5年度平均売買価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
第1四半期	311,400円	193,100円	98,400円	99,300円
第2四半期	313,000円	211,300円	97,800円	132,800円
第3四半期	319,700円	220,300円	98,400円	92,800円
第4四半期	319,900円	213,400円	91,500円	89,600円

平成6年度平均売買価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
第1四半期	288,100円	223,100円	74,800円	116,800円

年度別生産者補給金交付額

(単位: 頭、千円)

区 分	黒毛和種		褐毛和種		その他の肉専		乳 用 種		合 計	
	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額
平成3年度					29	2,302	11,908	288,472	11,937	290,774
平成4年度					30	2,615	18,105	904,361	18,135	906,976
平成5年度			32	2,169			21,933	1,399,543	21,965	1,401,712
小 計			32	2,169	59	4,917	51,946	2,592,376	52,037	2,599,462
平成6年度	20,682	328,844	4	218			5,444	466,844	26,130	775,906

注) 平成5年度(第4四半期)及び平成6年度は概算で、平成6年度は第1四半期分

子牛生産拡大奨励事業

事業の実施状況(発動状況)

本県の交付実績

年度		2年度				3年度				4年度				5年度				6年度				年度	交付頭数(頭)	交付金額(千円)
四半期		第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	2年度		
拡大奨励金	黒毛	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	2年度	0	0
	褐毛													○	○	○	○	○	○	○	○	3年度	0	0
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4年度	0	0
生産奨励金	黒毛	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	5年度	60,124 (拡大25,820 生産34,304)	1,340,388 722,936 617,452
	褐毛													○	○	○	○	○	○	○	○	6年度	20,239 (拡大 7,194 生産13,045)	774,832 330,924 443,458
	その他	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

※6年度は第1四半期分

肉用牛肥育経営安定緊急対策事業

事業の実施状況(発動状況)

本県の交付実績

年 度		2年度				3年度				4年度				5年度				年度	交付頭数(頭)	交付金額(千円)
四 半 期		第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	2年度		
乳用種	緊急	×	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	2年度	7,388	59,026
	特別	—	—	—	—	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	3年度	16,557	307,600
肉専用種	緊急	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○	4年度	29,289	502,910
																		5年度	26,154	433,650

※平成5年度は第3四半期までで概算

優良受精卵活用体制整備事業

本事業は、受精卵の需給のアンバランスの解消、体外受精卵の普及定着、受精卵移植産子の種畜利用の促進等を目的とした事業です。

1 優良受精卵利用促進事業

(1) 受精卵流通体制整備事業

家畜改良事業団のエンブリオバンクに譲渡することを前提に採卵した場合、また、エンブリオバンクから購入した受精卵を移植する場合、次の奨励金が交付されます。

- ・採卵：1回当たり47千円
- ・移植：1頭当たり15千円

なお、県内のA地域で採卵した受精卵をエンブリオバンクに譲渡し、その受精卵を県内のB地域でエンブリオバンクから購入して移植した場合も奨励金の交付対象になります。

(2) 体外受精卵生産供給体制整備事業

家畜改良事業団で生産された体外受精

卵を購入して移植する場合1頭当たり15千円の奨励金が交付されます。

体外受精卵の価格は次のとおりです。

父牛	紋次郎	・・・20千円
	安金、谷茂、高栄	・・・15千円
	北国7の8、熱富士	・・・10千円

体外受精卵を生産したい肥育雌牛（登録牛）を事前に特定しておき、希望種雄牛を指定して体外受精卵を生産することも可能です。この場合の体外受精卵移植産子は登記・登録が可能です。

なお、現在、家畜改良事業団が供給している体外受精卵は和牛ではあるものの、母牛の個体識別がなされておらず登記・登録はできません。

2 受精卵移植定着化促進事業

地域内での受精卵の譲渡、受精卵移植産子のうち種畜として利用すべき優良な子牛の還流等を推進する地域集団の組織化及びこれを推進するために奨励金（採卵・移植に対し上記と同額）が交付されます。

銘柄牛づくりのための「宮崎牛品質向上優良肥育素牛保留事業」始まる

経済連は昭和59年から枝肉成績と種牛の関係进行分析し、優良交配情報を生産者の方々に提供しています。今年からこのデータをもとに、「宮崎牛品質向上優良肥育素牛保留事業」を開始しました。目的は、より資質の高い素牛を県内に保留し、産地間競争に打ち勝つ銘柄牛づく

りを目指すものです。

事業内容は高品質の枝肉が期待される肥育素牛の導入に対して金利を助成するものです。今年度は約1000頭を対象に、7月下旬各JAに頭数を配分しました。是非御利用下さい。



子牛生産拡大奨励金と生産者補給金を交付

「子牛生産拡大奨励金」

平成6年度第1四半期における黒毛和種子牛の全国平均取引価格が288,100円となり、平成

6年度から大幅に改正された「子牛生産拡大奨励事業」の発動基準価格（35万円）を下回ったことから、期間中（第1四半期）に「販売」又は「保留」した子牛に対して、前年度（平成5年度）に繁殖雌牛を拡大した生産者の方には子牛1頭当たり46千円、維持した生産者の方に

は子牛1頭当たり34千円の「子牛生産拡大奨励金」が交付されました。

「生産者補助金」

さらに、「生産者補助金制度」の保証基準価格(304千円)も下回ったことから、新制度になってから初めて発動し、子牛1頭当たり15,900円の「生産者補助金」が「奨励金」と同時に交付されました。

※この「子牛生産拡大奨励金」と「生産者補助金」を合わせると、期間中に「販売」又は「保留」した子牛1頭当たりの交付単価は、「拡大者」が61,900円、「維持者」が44,900円となっています。

「宮崎県における交付実績」

宮崎県においては、約1万戸の生産者に対して約2万頭の黒毛和種の子牛に交付され、総額で11億円余りの交付実績となっています。

〈子牛生産拡大奨励金及び生産者補助金の交付実績(平成6年度第1四半期)〉
【黒毛和種】 (単位:戸、頭、円、千円)

区 分		対象者数	頭数	単価	交付金額
生産者補給金		10,367	20,682	15,900	328,843
生産拡大奨励金	拡大	2,495	7,194	46,000	330,924
	維持	7,682	13,041	34,000	443,394
合 計	拡大	2,495	7,194	61,900	445,309
	維持	7,682	13,041	49,900	650,746
	その他	190	447	15,900	7,107
	計	10,367	20,682	53,339	1,103,162

「35万円の価格保証」

このように、生産者補助金制度に加入し、「子牛生産拡大奨励事業」に参加することによって、生産者の子牛平均取引価格が全国平均取引価格よりも上回っていれば実質的に35万円以上の価格が保証されていることとなり、安心して経営を継続することができます。

「奨励金交付対象者の区分」

”前年度(基準日:3月31日)に1頭以上繁

殖雌牛を増頭した者”が「拡大者」、”前年度に繁殖雌牛を維持した(頭数が同じだった)者”が「維持者」として取り扱われます。

「平成7年度の事業参加について」

したがって、今年度(平成6年3月31日に比べて平成7年3月31日)において繁殖雌牛の飼養頭数が1頭でも減少すると「縮小者」として取り扱われ、平成7年度は「子牛生産拡大奨励事業」には参加できなくなる(子牛生産拡大奨励金が交付されない。)ので注意が必要です。

※生産者補助金制度に加入するとともに、本年度も「宮崎牛」の生産基盤である繁殖雌牛を維持・拡大(※1頭でも増大すれば拡大)することにより「子牛生産拡大奨励事業」に継続して参加し、子牛生産経営の安定を図ることが重要です。

7年度予算に係る県選出国会議員との懇談会開催される。

7月14日に東京の赤坂プリンスホテルにおいて7年度の国の施策、予算に対する本県の要望事項を県選出議員に伝える懇談会が開催されました。県側から松形知事、村岡農政水産部長、県議会から工藤議長らが出席するとともに、県選出議員も全員出席されました。その中で肉用牛関係では「肉用牛の価格安定対策等の充実強化について」、「畜産環境総合整備事業等の予算枠の確保及び新規地区の採択等について」要請しました。これに対して県選出国会議員からは、「肉用牛は35万円まで価格補填されている。補給金制度や助成事業の概要について行政、生産者に対してもっと周知徹底を図ってほしい。」という要望、意見がだされました。

輸入牛肉について9割が店頭表示

日本食肉消費総合センターの適正表示販売状況調査結果が明らかにされました。同調査は昨年7月と11月に全国約17千店の食肉販売店を対象に輸入牛肉の表示の実態等を調

査したものです。その結果、牛肉では、店頭表示の有無について「すべて表示している」との回答が92.6%と全体の9割を超えました。逆に「全く表示していない」は1%となっています。また、部位別表示については、「表示している」との回答が93.2%とこれも全体の9割を超えました。牛肉においては輸入牛肉の表示や部位別表示がかなり徹底している実態が明らかになりました。

牛受精卵の「核移植」による子牛の誕生

このことについては、既に新聞やテレビで報道されたところです。

畜産試験場では平成4年度から「核移植」技術の開発に取り組んでいます。

今回の例は、昨年11月19日に畜産試験場が作出した黒毛和種の「核移植卵」を高原町の酪農家、石山宗行氏の乳牛を借り腹として移植したもので、全国でも数少ない例です。

受精卵の核は、生命体の遺伝を支配します。「核移植」とは、この核を入れ替える技術です。今回の成功で、1つの受精卵から遺伝的に同一の受精卵を多数作り出す可能性が証明されました。

今後、この技術を活用した種雄牛造成や肉用牛の改良など、「宮崎牛」の生産性向上に大きな期待が寄せられます。

きんさん・ぎんさん宮崎牛に喜ぶ

「より良き宮崎牛づくり対策協議会」は今年も7月11日にきんさん・ぎんさんに宮崎牛を贈りました。名古屋の自宅で宮崎牛を受け取り「宮崎牛は柔らかく、味がいいがね」と二人で顔を見合わせてお喜びになりました。



宮崎牛の美味しさについてお話中のきんさん・ぎんさん

「武蔵丸」関に「宮崎牛」1頭分を贈呈

7月17日の大相撲千秋楽表彰式において、全勝で初優勝を遂げた大関武蔵丸関に対し、経済連内野会長から宮崎牛1頭分が贈呈されました。

本県では昭和61年九州場所から優勝力士に贈呈していますが、最近では、大相撲人気に目をつけて特産品の宣伝のため、各自治体から副賞提供の希望が激増しているようです。NHKという公共のメディアを通じて全国に県名や特産品が紹介されるのですからその効果も大きいはずで、「大相撲の副賞になるだけで、はくがつく」ということなのでしょう。

今年の名古屋場所では本県その他、全農は米や牛肉などあわせて1t分、地元愛知県はアオジソ、名古屋市は「絞り染め」の浴衣生地、大分県は椎茸、福井県は梅干、ホクレンは野菜などあわせて4tトラック1台分といった具合です。その他、新たに富山県が名水やコシヒカリ、高知県がカツオやスイカ、鹿児島県が牛肉について相撲協会と交渉したようですが、難しいようです。もらう立場からは多ければ多い方が良いでしょうと思うのですが相撲協会は新規の提供は断わる傾向にあるようです。本県の畜産関係者の先見の明は尊敬に値するものです。最後にもらう側（相撲部屋）の感想を一言「トラック一杯のジュースや果物をいただくことがあります。力士が多いので助かりますが、生鮮品がどんと届いても日もちがするかどうか心配。最近は分割していただいたり、相当する賞金になったりしているのでありがたいと思います。」

技術情報

肉用牛産肉能力検定情報

1. 直接検定について

平成5年度第5回直接検定終了時選抜が行われ、5頭が種雄牛候補として選抜されました。選抜された5頭は、今後、間接検定または現場後代検定を受検し、産肉能力の判定を行う予定です。

直接検定成績（検定期間平成6年3月8日～6月28日）

名号	父	母の父	産地	開始時体重	終了時体重	D.G	備考
晴桜3	隆桜	誠隆	畜試	244.0kg	395.0kg	1.35kg	ET
隆久	誠隆	隆美	畜試	274.3	410.0	1.21	ET
糸安	菊安	糸秀	小林市	281.0	429.0	1.32	
茂福	安平	福茂	高原町	304.3	440.0	1.21	
菊平	菊安	安福	佐土原町	228.7	368.0	1.24	

(注) 備考欄のETは、受精卵移植により生産された牛です。

2. 間接検定について

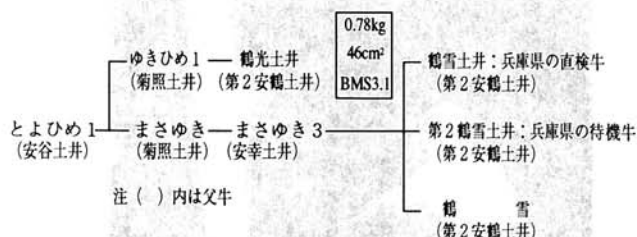
平成6年4月以降現在までに3セットが終了しましたが、その成績は、全国平均と比較すると脂肪交雑、ロース芯面積ともに優れており良好な成績でした。

兵庫から「鶴雪」号を導入

本牛は、今年、兵庫県の但馬美方種牛育成組合から導入した種雄牛候補牛で10月頃に試験交配する予定です。

血統等は、以下のとおりです。

- 1 生年月日 平成5年1月20日
- 2 生産者 中村重千（美方郡浜坂町）
- 3 血統等
 - (1) 体格 16ヵ月令 体重 131.5cm
胸囲 182cm
 - (2) 血統



(3) 父等の間接検定成績

血統	枝重	芯面積	サシ
父 第2安鶴土井	302kg	47cm²	+4.4
母の父 安幸土井	322kg	49cm²	+4.3
祖母の父 菊照土井	302kg	47cm²	+4.1

血縁では、全兄弟2頭が兵庫県に購買され、直接検定を受検し、そのうち「第2鶴雪土井」(D G 1. 18)は、試験交配を終了しています。

また、母の従兄妹の「鶴光土井」は、兵庫県の間検で参考ながらBMS3.1の成績をおさめています。

以上、「鶴雪」の紹介をしましたが、本県で初めての第2安鶴土井の産子の導入であり、期待しておりますので、試験交配については県産候補牛とともに御協力をお願いいたします。

野尻町の肉用牛繁殖における1日1回給飼事例

野尻町の肉用牛繁殖では、飼料給与を夕方の1回のみ行う農家が近年増加しています。現在、約60戸程度の農家がこの給与体系を導入していますが、今回はその一事例を簡単に紹介します。

野尻町三ヶ野山の切畑好光さんは、肉用牛と養豚の複合経営。労力の省力化を目的として平成元年から独自の考えで、この給与体系を導入しました。

この給与体系導入による効果（メリット）としては、①労力の省力化②飼料コストの削減（2回給与時の7～8割程度の量）③夜間分娩の減少（生理学的メカニズムは、さだかではあり



夕方5:00 運動場(朝9:00から放し飼い)から牛を牛舎に入れ粗飼料中心の1回給与

ませんが、試験機関のデータでも夕方から夜間にかけての給与で昼間分娩化することは実証済み)

また、この体系の導入による弊害もまったく見受けられず、発情も強く分娩後40日程度で種付けし、しかも年一産を実現(13頭の通算分娩間隔12.1ヵ月)しており、子牛の伸び、肋張りの発達も素晴らしく昨年度の去勢、雌子牛の平均販売価格も440千円という成績でした。

ただし、どの農家がこの給与体系を導入しても成功するというものではなく、牛飼養管理能力の優れた農家にのみ成果が期待出来ると考えられます。

その条件をクリアし、複合経営等で労力の省力化を余儀なくされている繁殖農家については、今後このような給与体系の検討をしていくのも面白いのではないのでしょうか。

今後の肥育牛経営のポイントはいかに(西都市の優良事例から)

牛肉輸入量の大幅な増加が和牛の枝肉価格の下落や子牛価格の低迷につながっています。

そうした状況の中で、いかにして肥育経営のコスト引き下げと肉質の向上を実現できるかが今後の大きな課題です。

そこで、肉用牛肥育専業経営の優良事例として西都市で常時雇用2名、飼養頭数300頭の肥育専業経営の経営状況を見ますと次のようになっています。

生産管理面では①素牛は過去の成績から系統構成を考慮し、体重よりも骨格を重視して、平均価格より2~3万円安いものを導入、②前期は

8m²/頭の6頭群飼、仕上期は9.6m²/頭の5頭群飼又は7m²/頭の2頭飼育、③飼料は前期(10種類)、後期(8種類)の自家配合飼料で32円/kgの低コスト化を実現。粗飼料はイナワラ、ヤンソウを利用。給与量は導入期毎に牛の採食量を見て決定。④防暑対策は屋根散水、寒冷紗の利用、中古大型送風機の活用。⑤除角により事故や発育のバラツキを防止。⑥畜舎は古電柱を利用し自前で設置。⑦雇用労働の活用によるきめ細かな管理を実施。⑧良質堆肥の生産販売による副産物収入の増加など良く工夫されています。

なお、平成5年度の実績は素牛導入価格372千円、枝肉重量440kg(枝肉単価1,973円)、販売額867千円、肥育期間579日、肉質4等級以上の割合68.5%、事故率0.06%となっています。

経営管理面では①導入・出荷・生産管理、経営収支簿等の記帳によるコスト管理の実施、②過去の出荷時期別価格相場を見ながら、子牛市場での導入頭数や導入価格を決定、③計画的な資本蓄積により現在では運転資金の85%を自己資金で調達しているため、金利負担が少ない等有利販売と自己資本蓄積に努めています。

以上のように常に情報変化に目を向け、新しい情報を的確に捕らえながら先を見越した前向きの経営戦略を樹てることによりコストの低減と販売価格の向上に努めていることが伺われます。

今後は、外部からの情報をうまく活用しつつ、単なる模倣的なものでなく自分なりに適応化した生産経営方式として積極的に取り入れることが必要だと考えています。

現地情報

種牛の産地は今

今回、種雄牛導入のため、島根、鳥取、兵庫の各産地を現地調査しましたので、その現状を報告します。

[島根]

島根の種雄牛は「第7系桜」の「系桜系」、「晴美系」、「倉花系」そして「兵庫系」の4系統から構成されており、約7割が系桜系で占

められていました。しかし、19千頭余りの雌牛側も「糸桜系」が大半を占めており、近交係数の面からこれに交配するための主力種雄牛がおらず、今後の交配に支障がでてきているのが悩みの種ようです。基本的には、本県と同様なシステムで改良事業が進めれていますが、最近では、特に世代間隔短縮のため育種価が高いと推定される種雄牛については、リスクを抱えながらも間接検定成績が判明する前に後継候補牛を作出している例も一部にあるようです。

〔鳥取〕

鳥取では、増体の「気高系」から肉質改良のため、「北気高」に「第7糸桜」を交配した「糸北鶴」が主力となっていました。

しかしながら、その後継牛の間接検定成績はいずれもBMS2.5以下となかなか思わしい成績が得られず、再度、「気高系」の造成にも積極的に取り組んでいました。しかし、このような状況の変化の中でも、優良系統保持のため一貫して、「気高系」の雌牛を残して続けている繁殖農家があり、こんな人たちが肉用牛の育種改良を支えているのだと痛感しました。

〔兵庫〕

最後に兵庫においては、「中土井系」を中心に閉鎖育種的な種雄牛の造成を行なっています。

今年の種雄牛育成組合のオークションにおいても本県に加え国の家畜改良事業団、各道府県、個人等が購入しています。

また、県では遺伝素材として必要でありながら市場性が低いために放っておいた場合、消失が予測される他の系統の雌牛群の維持にも積極的に取り組むなど長期的な改良方針の中で改良に取り組んでいる姿が印象的でした。

このように種牛の産地においても様々な問題を抱えており、試行錯誤の中で改良が進んでいるというのが現状のようです。

そこで、本県も産地の実状を踏まえ、現在の改良事業により効果的な仕組みを取り入れながら、肉用牛の改良を強力に推進しなければならんと思いました。

※ BMS（脂肪交雑評価基準）

第73回銘柄牛共進会開催（名古屋の部）

第73回銘柄牛共進会が7月14日名古屋食肉市場で開催されました。県内各地から自信をもって育てられた81頭が肉質を競いました。

枝肉成績は非常に高く、4等級以上が87%と本県の肥育技術レベルの高さがうかがえました。上位入賞者の成績は次のとおりです。

順位・賞	農協	氏名	血統			枝肉の重量	単価
			父	母	祖父母		
1 グランプリ チャンピオン	児湯	中島 興一	安平	隆美	糸秀	454.8	4200
2 優秀賞	日南	安楽 重光	安平	美福	花高	426.3	3100
3 優秀賞	串間	武田 進一	安平	清章	隆美	423.6	2910
4 優秀賞	尾鈴	黒木 学	安平	糸秀	秀安	438.3	3000

宮崎牛肥育農家研修会開催される

肉用牛生産者及び関係者約180名が参加して、宮崎牛肥育農家研修会が霧島国際ホテルを会場に7月21日・22日盛大に開催されました。

今年の研修会は①ビタミンと肉質②枝肉分析データ報告③肉用牛の経営と飼養管理等の技術研修につづき、特別講座は「宮崎牛とアンジェロパティオの出会い」と題しまして、東京の宮崎牛指定レストラン、アンジェロパティオ総支配人粗谷偉人氏が講演されました。

氏は「宮崎牛はロマンを感じさせる牛肉です。今東京で評判になっています。皆さんが大事に育てられた大切な牛肉は私が責任をもって、愛情を添加して東京の人に提供します。どうか自信と誇りをもって宮崎牛生産に頑張ってください。」と熱心に語られ、参加者に感動を与えていただきました。



宮崎牛とアンジェロパティオの出会い

「肉用牛生産技術向上促進事業」で都城市萬代宏君 が研修地「市原畜産」で1年研修

市原畜産は島根県の最西端に位置し、西部は山口県に接して高津川下流に広がる日本海に面した丘陵地帯で、平均気温14.6℃、年間降水量1,683mmと比較的温暖な地域です。

市原畜産は昭和55年に協同組合として発足し、現在、繁殖牛212頭、子牛106頭、肥育牛37頭、種雄牛候補9頭で、肥育牛のうち20頭は飼料効率調査のための委託牛です。

市原畜産が管理する圃場は55haと広大で、粗飼料生産調製機械等は一般の農家で見られない程の大型機械が整備されています。初めは戸惑いましたが順次それらの大型機械の運転作業にも馴れてきました。

圃場はイタリアンライグラスの草地で5月から9月までの期間にバンカーサイロにサイレージの調製貯蔵を行いました。9月から11月には粗飼料確保のため隣県の山口県まで出かけました。11月から2月までは 場に堆肥散布を行いましたが、この冬は宮崎では体験のできない除雪作業もやりました。

市原畜産での日課は朝食前に繁殖牛の飼いつ

け、ボロ出し、7時30分に朝食、8時30分の朝令から始まります。（規則正しい生活ですから朝寝坊する事もできません）。それから子牛の治療をします。治療する子牛で最も多いのが白痢です。生後1週間以内に患う子牛は危険なので早めに獣医の指示を受けます。長引く子牛は母牛と隔離し、「エレクトロプラス」を与えると回復が早いようです。初めの頃は心配しながら治療していたが、暫所要領よく治療できるようになりました。夕方の飼いつけの時間まで牛の移動や堆肥の切り返し等で1日が永く感じられる毎日でした。

この1年間市原畜産で研修できた事は専務を初め諸先輩の研修生が居てくれたお陰げだと感謝しております。

ここで学んだ総てを実際面に生かし世界の宮崎牛造成に翔いて行きたいと思っています。

海外、県内外で研修御希望の方は宮崎県肉用牛協会まで

今月の飼養管理ポイント

尿石症について

尿石症とは尿に溶解している無機塩類が析出して、膀胱などで形成された尿石が輸尿管や尿道を閉そくし障害を招く疾患で、特に肥育用の去勢牛に育成期から肥育期にかけて発病が見られます。わが国で問題となる尿石の主な成分はリン酸マグネシウムやリン酸カルシウムといったものです。

これらの原因としては大きく分けて次の4つが考えられます。

- ① 濃厚飼料の過給と粗飼料の給与不足によるもの。これはカルシウムとリンのバランスが崩れ、尿がアルカリ性に傾き尿石を形成しやすくする上、尿量の減少も引き起こし症状を悪化させます。
- ② ビタミンAの欠乏によるもの。ビタミンA及びカロチンが欠乏すると尿路の粘膜が異常をきたし、尿石が形成しやすくなります。
- ③ 飲水量の減少によるもの。給水の制限や、寒冷期における飲水量の減少により尿が濃縮し、尿石を形成しやすくなります。

- ④ 早期の去勢によるもの。4ヵ月齢以前の去勢は尿道の発育を阻害して、尿石の排泄困難の原因になります。

尿石症の場合、外科的切除により尿石を除去して治療を行う方法などありますが、そうなる以前の予防が大事ですので次の点に注意して下さい。

舎外での日光浴をしばしば励行し、十分な給水に心がけるようにする。その為には寒冷期には水を温めたり、食塩を濃厚飼料に添加（4～5%）することによっても飲水量を高めることができます。また、粗飼料の給与量を増やし、カルシウムとリンの比が1:1～1.2:1、程度になるようにする。さらに、ビタミンA剤を育成後期と肥育期に15万単位ずつ注射したり、塩化アンモニウム（日量5g）の給与も予防効果があります。また、去勢時期を遅らせることも大切でしょう。

以上述べてきた点に十分注意して飼養管理を行って下さい。

○ ??? おたずねします。 ??? ○

和牛の検定という言葉をよく聞きますが、それはどんな事をするのですか？ また、検定にはどんな方法があるのですか？

今回は兄弟検定についてお話します。種雄牛産肉能力の一手法として、また雌牛の産肉能力の判定法の1つとして用いられる検定です。

種雄牛産肉能力判定としては、受精卵移植を活用して、両親とも同じ兄弟（全兄弟）を同時に数頭生産し、その中の雄一頭を直接検定にかけ、他の子牛は肥育を行います。直接検定を終えた雄は、肥育された兄弟の枝肉成績が判明するまで育成され、その枝肉成績によって選抜されます。ただこの方法は後代検定に比べて、やや正確度が低いために、さらに間接検定（後代検定）を行う必要があります。

雌牛の産肉能力の判定には、やはり子供の肥育成績が最も重要ですが、この兄弟検定を応用すると、受精卵移植の活用により、短期間に複数の産子が得られ、その肥育成績により、母牛の産肉能力の判定と、雌子牛の産肉能力の推定が可能になるため、雌牛側からの改良速度のアップが図られます。

次に新しい後代検定の1つである現場後代検定についてお話します。これは間接検定を補完する目的で造られた検定法です。

すなわち、既に供用中の種雄牛で、間接検定を受検していない種雄牛や、若い種雄牛候補の中で、間接検定受検の予定がないものについて、生産された子牛の肥育成績によって産肉能力判定の資料とするものです。

生後12カ月齢以内の去勢子牛を種雄牛1頭当たり、検定終了時まで10頭以上をもって、28カ月齢まで一般の肥育を行い、その枝肉成績に従って、種雄牛の選抜か、淘汰かの判断の材料になります。

以上のように多くの検定法について述べましたが、要約しますと、種牛の産肉能力の向上には、枝肉成績に裏付けされた育種価推定値による選抜と、その産子の成績を見る産肉能力検定は必要不可欠であるといえます。

今後の行事計画

子牛セリ市場開催日程

[illegible]

備考 年間延73,100頭

黒毛和種成雌牛登録検査日程

[illegible]

第46回宮崎県共進会開催

今回の種畜の共進会は串間市市政40周年記念事業として、串間市、南那珂地域家畜市場で10年ぶりに開催されます。

また、種畜部門の開催時にふれあい広場で種々のコーナーを開催いたします。

1 家畜の出品

- | | | |
|-----|-------|------|
| (1) | 肉用種々牛 | 72頭 |
| (2) | 乳用種々牛 | 70頭 |
| (3) | 種馬 | 20頭 |
| (4) | 肉牛枝肉 | 100頭 |

2 日程及び場所

- (1) 種畜部門 10月5～6日
串間市、南那珂地域家畜市場
- (2) 肉牛部門 10月23～25日
高崎町(株)宮崎くみあい
食肉高崎工場

3 付帯事業(ふれあい広場)

- (1) 畜産相談コーナー

- (2) 展示ビデオコーナー
- (3) クイズコーナー
- (4) ザ・チャレンジ(ゲーム)コーナー
- (5) 肉の試食、加工品販売コーナー
- (6) 牛乳・乳製品コーナー
- (7) ふれあいミニ牧場コーナー



編集後記

変な憶測

ホルモンは、それぞれの機能分担を持っており、ほどよくバランスをとり合って健康が維持されているのであるが、もし松果腺というホルモンのバランスが崩れたらどうなるであろう。

松果腺ホルモンは幼児のときには、あまり早くから生殖器が使えないように早熟するのをじーつと抑えている役目を持っていると言われるが、そうだとすれば、もしもですよ、このホルモン分泌が幼児の頃に異常を起したらサア大変?。その幼児は、どす黒い陰毛が生え繁殖にかけては成人なみとなつて情を感じるようになり「母ちゃん早くおねんねしてオッパイを?」と本気で迫るようになり、親父(おやじ)に向つて、「父ちゃんには用がないので早く出て行け」というようになるかもしれないのでござんす。

(頓珍漢)

本年は酷暑炎熱の毎日が続き、乾燥に強いと言われる、とうもろこし、ソルゴー等も猛暑の日中には葉を巻き込みあえぎ、あえぎしている姿が見られたが、それらの生育結実は良好で、サイレージ調製でも高品質のものが確保できた。

9月にはいり秋の彼岸が近づくにつれ、イタリアンライグラス・エンバク等の作付けを急ぎ、自給粗飼料の確保に努力されん事を祈念したい。